2011.05.26

認定ＮＰＯ法人(認定特定非営利活動法人) アレルギー支援ネットワーク

食事制限者への支援

ERN エコ・ライス新潟

関係各位

有限会社エコ・ライス新潟

２次,３次避難で行政･患者会も実態を把握できず
仮設住宅入居後の透析治療の通院が問題に

避難先が変わり病院を転々とする度に患者への負担が増大

○ 透析患者にとって通院手段は「ライフライン」そのもの ○

福島県二本松市の透析者専用の避難所。中央：南相馬腎友会樋口峰雄会長。左：エコ・ライス新潟菅原恵美子

エコ・ライス新潟の菅原恵美子さんは子供の頃から腎臓を患い７年前の中越地震で被災して避難生活、その間、食事制限ができず、疲労とストレスなどが加わり体調が悪化して、半年後に人工透析となりました。「はんぶん米」の開発の原点と言えます。菅原さんと日帰りで会津若松市へ向かいました。

南相馬市など原発から３０km 圏内の患者は、会津地方に集団で避難しているとの情報で、病院、保健所を回り透析患者の避難先を探しました。しかし、１次避難所から２次避難所に移っていたことはどこの機関も把握しておらず、避難所の担当行政職員にも引き継がれていませんでした。

ところで、２日に１回透析治療を受け看護師に命を預ける透析患者にとって信頼関係は大切なものです。２次、３次と避難先が変わり、その度ごとに病院も変わる生活は患者の多大なストレスとなります。今後、仮設住宅への入居が本格化すると食事の問題は解決されますが、家や車を流された透析患者の通院の問題となります。通院は透析患者にとっての「ライフライン」です。通院の確保が重要になります。

東京から支援に来ている赤ちゃんプロジェクトのボランティア看護師のお２人。毎回、違うスタッフが東京方面から手伝いに越後湯沢まで来ています。

いわき市から避難して来たｱﾚﾙｷﾞｰ児の母親。前回は子供がスギ花粉症で部屋から出れず暗い表情でした。今回は「子供と外で遊びます！」と明るい表情でよかった。

避難生活でもお元気な樋口会長から健康の秘訣を伺う。くよくよせずにしっかりと食事をして透析治療を受ける。身長も高く大きな体ですが、心もおおらかな方。

企業からの支援物資の一部。ご協力感謝いたします。
ベータ食品㈱
石井食品㈱
ｽｰﾊﾟｰﾏｰﾄ㈱　他

○ 「赤ちゃん一時避難プロジェクト」に３度目の物資を支援 ○

現在、１１２組の親子が避難生活をするプロジェクト。集団生活で感染症に罹患した子供は食堂での食事から各部屋での食事に切り替えることで感染拡大防止をしています。その為に、自室で食べられる保存食として「お粥」「はんぶん米」「カレー」「水」などの物資を支援しました。

６月には東京家政大学の学生とアレルギー対応米粉スイーツを作り、子供達と交流をする予定です。

【 問合先：㈲エコ・ライス新潟　豊永有(ﾄﾖﾅｶﾞﾕｳ) 】
〒954-0181　新潟県長岡市脇川新田町字前島 970-100
ERN エコ・ライス新潟
TEL　0258-66-0070　FAX　0258-66-0447
e - mail　eco - net@nekonet.ne.jp